

普通科 GS 探究 II 担当教員の動き

令和 5 年度普通科 G S 探究 II 担当者会議資料(編集)

普通科 GS 探究 II 担当者会議は、GS 探究 II の授業前(5 限)に実施しています。基本的には、新たな取組を行う前に会議で連絡・調整を行います。1 学期は講座担当の教員間での情報交換や研修の時間を多く設けています。

目次

1. 年間スケジュール・・・1	
2. 各会議資料（編集）	
(ア) 第 0 回　・・・　2	(ク) 第 10 回　・・・　12
(イ) 第 1 回　・・・　4	(ケ) 第 12 回　・・・　13
(ウ) 第 2 回　・・・　6	(コ) 第 13 回　・・・　14
(エ) 第 3 回　・・・　8	(サ) 第 14 回　・・・　15
(オ) 第 4 回　・・・　9	(シ) 第 16 回　・・・　16
(カ) 第 7 回　・・・　10	(ス) 第 17 回　・・・　17
(キ) 第 9 回　・・・　11	(セ) 第 19 回　・・・　18

1. 年間スケジュール（普通科 GS 探究 II）

月	4 月	5 月	6 月 7 月 8 月	9 月	10 月 11 月 12 月	1 月	2 月
内容	ガイダンス 1st 共通テーマ「ペーパードロップ」	2nd テーマ別のグループ選択		2nd 経過報告会（ポスターセッション）		全班 発表会	代表班 発表会 研究論文 作成
		2nd ステージ 探究活動 					
会議資料	第 0 回 第 1 回 第 2 回 第 3 回	第 4 回 第 7 回	経過 報告会 第 10 回	第 12 回	第 13 回 第 14 回 第 16 回	第 17 回	第 19 回

【第0回】普通科GS探究Ⅱ会議

1. GS探究Ⅱの評価方法

GS探究Ⅱは、定期考査を実施しません。

- ① 1、2学期に実施するパフォーマンス評価
 - ② 授業内での活動について、探究力評価ルーブリックによる評価
 - ③ 3学期の発表スライドおよび研究論文について、成果物評価ルーブリックによる評価
- この3つで評価を行います。

生徒には、最初の授業で研究ノートを配付します。パフォーマンス課題はノートに記述させますが、それ以外の日々の記録等については評価の対象ではありません（探究力ルーブリック評価の参考にするのはOKです）。ノートは毎回回収し、管理は先生方をお願いします。

①パフォーマンス評価

2nd ステージの取組について、1、2学期にパフォーマンス課題を実施します。

課題①：あなたの班はGS探究Ⅱで何を探究しようと考えていますか。テーマについての学びを整理する中で気付いたことを踏まえて記述しなさい。

(Critical Thinking, Creativity, Communication, Collaboration, Challenge)

課題②：あなたの班の研究課題に対して設定した仮説について、その仮説を設定した理由を踏まえて記述しなさい。

(Critical Thinking, Communication, Challenge)

課題③：あなたの班の活動計画について、工夫したことや立案で苦労したこと踏まえて説明しなさい。

(Creativity, Communication, Collaboration)

②探究力評価ルーブリック →別紙参照

③成果物評価ルーブリック →別紙参照

2. 担当者の先生方へのお願い

課題研究における教員の基本スタンスは、探究に取り組む生徒に伴走するイメージです。あれこれと教え込むのではなく、かと言って放任でもない。生徒と一緒に考えてやってみたり、生徒が困っているときには少し提案をしてみたり、そんなスタンスが良いと思います。ぜひ生徒とともに探究活動を楽しんで下さい

3. 1st ステージの授業の予定

授業1回目

6限：視聴覚教室に集合

- ・担当教員紹介 5分 ・ガイダンス「GS探究Ⅱとは？」 20分
- ・昨年度代表班発表会の動画視聴 25分

7 限：1st ステージ「ペーパードロップ」

目的：共通テーマによるミニ課題研究を行い、今後の探究の進め方や留意点を確認する。

取組の流れ

①課題の発見

各班に A 3 のコピー用紙を渡すので、まずは紙を落としてみよう。

何度も落として観察している中で、何か調べてみたいことが出てこないだろうか。

必要に応じてタブレットを用いて調べるのも OK です。

②仮説の設定

①で発見した課題についての仮説を論理的に設定してみよう。

授業 2 回目

6 限：1st ステージ「ペーパードロップ」

③検証方法の検討

②で設定した仮説を検証するためには、どうすればよいだろうか。

検証方法を考える際には、条件をきちんと決めなくてはならない。どのような条件を考えればよいのだろうか、班のメンバーと話し合ってみよう。

※時間があれば、実際に検証してみよう。

7 限：1st ステージのレポート作成

④ノートにレポートを作成

レポート課題

1st ステージであなたの班が取り組んだ内容について、『課題』『仮説』『検証方法』のそれぞれがわかるように説明しなさい。

分量の指定はありませんが、配付した実験ノート 1 ページ分程度の分量を想定。

完成したレポートは、授業の最後に担当教員へ提出。

参考 令和 4 年度普通科 G S 探究 II テーマ一覧

分野	研究テーマ名	分野	研究テーマ名
数学	数学と読解力の関係性	美術	デザインで身の回りの課題解決
数学	データ（統計学）を用いて科学的に分析する	国語	人間を科学する ～お芝居を作ろう～
数学	美しいデザインの中にある比	国語	歌詞研究
物理	再生可能エネルギーを調べる	国語	メディアにおける表現の文法
化学	自然と共に生きる	地歴	交通の要衝 伏見・桃山を探る
化学	物質の不思議～結晶づくり～	英語	世界の言語や文化
生物	種子について探ってみよう	家庭	高校生にもできる SDGs
体育	集中力を科学する	家庭	より生活を楽しむには
音楽	音楽の秘密を探ろう！	家庭	とことん住環境と向き合ってみよう
書道	美しい文字と人間の関係		

【第1回】

1. 今日の授業

6限：視聴覚教室に集合

- ・担当教員紹介
- ・ガイダンス「GS探究IIについて」
- ・昨年度代表班発表会の動画視聴 「家庭科：超 Chill な教室の作り方」
「芸術：竹害を減らそう」
「国語：日本と海外の映画ポスターの違い」

7限：1st ステージ「ペーパードロップ」

目的：共通テーマによるミニ課題研究を行い、今後の探究の進め方や留意点を確認する。

2. 1st ステージについて

- ・1st ステージは「ペーパードロップ」を題材に研究計画の立案練習を行います。内容は、先行研究の調査と研究課題の設定、仮説・検証方法の作成についての演習とそのレポート作成です。配当時間は3時間（50分×3回）です。
- ・先生方には生徒を2班（1班あたり約5人、計約10人）担当して頂きます。

授業1回目 7限：課題の発見、先行研究の調査、仮説の設定

- ・紙を落とす中で、「もっとゆっくり落とすには？」「狙った場所に落とすには？」という問いが生徒の中に出てくると思います。その生徒から生まれた問いから課題を設定します。
- ・生徒の問いの中には「調べたらわかること、以前に誰かが調べた事」もあるはずですが、それらについては調査を行うことで、「ここまではわかっている。ここからはわからない」ということを明らかにさせてください。※過去の先輩の成果を確かめることも良いですが、それを確かめた結果、新たにどのような問いが出てくるかまで考えられると良いです。
- ・自分たちの問いから課題が出てきたら、課題に対する仮説を設定します。「なぜそのような仮説になるのか」「この仮説により自分たちの問いは検証できるのか」について、考えるように促してください。
- ・話し合った記録や実験結果は必ずノートに記録する。記録に残さないものは科学的研究の成果として認められないことを指導してください。

授業2回目 6限：検証方法の設定

- ・前回までに考えた仮説を確かめるための方法を考えます。
- ・実験の場合であれば、仮説を検証するための条件が整っているかどうかを考えさせてください。

「落とす高さ」「紙の大きさ、質量」「落とし方」「測定方法」など、考えなければならないことはかなり多いはずですが、意外と曖昧なままであることも多いです。「この方法で本当に大丈夫？こんな風にならない？」といった問いかけで気づかせることも必要になるかもしれません。

7限：レポート作成

- ・研究ノートに書かせてください。分量の指定はありませんが、ノート1ページ以内を想定。
題名は「1st ステージ ペーパードロップ レポート」
「課題と仮説」「検証方法」の2項目について、自分たちが取り組んだことを記述させてください。
適宜、図表やグラフを用いてわかりやすく説明するよう指示してください。
- ・7限終了時に担当教員に提出。担当教員は、上記の2項目について成果物ルーブリックに従ってそれぞれ5段階で評価を行い、ノートの各欄に記入してください。2nd ステージ開始の日に返却します。
- ・成績入力シートは下記にファイルを作成予定です。

【指導のポイント】

※「教員の役割は生徒達の伴走者」

1st ステージでは必要に応じて介入して指導してください。準備し過ぎず、放置し過ぎず、生徒が主体的に取り組んで力を発揮できるように誘導して下さい。文化祭の時の担任の役割に近いと思います。課題研究の成果や発表会も大事ですが、課題研究の過程で生徒が5Cの力を身に付けさせることが目標です。

※「科学的手法を意識する」

S S Hの計画では桃山高校の**探究Ⅱは文系・理系の両方で科学的手法を用いること**としています。科学的手法とは「予備的調査や実験→課題の設定→仮説の立案→研究計画の作成→仮説を検証するための実践・実験・調査→結果の整理→結果の考察→成果の公表」の流れを踏まえ、科学的に有意な結論を発表することです。

3. 2nd ステージ

- ・2nd ステージのテーマについて、御検討をお願いします。4月25日（火）までにテーマを説明する文章をWord等で作成してフォルダに入れて下さい。分量はB5用紙の半分～1枚までをお願いします。図などを入れていただいても構いません。

(テーマについて不明な点があればご相談ください。)

3. ICT機器について

- (1) Teams を利用してデータの共有を行います (2nd ステージから利用開始)。詳細は2nd ステージが始まるまでの会議でお知らせします。
- (2) 基本的にタブレットを持っているので、スマホの授業中の使用は原則禁止。ただし、やむを得ず使用する必要がある場合は、担当の先生の許可の下でのみ使用可とします。
物理実験室にノートパソコンがありますので、必要があれば貸し出します。

【第2回】

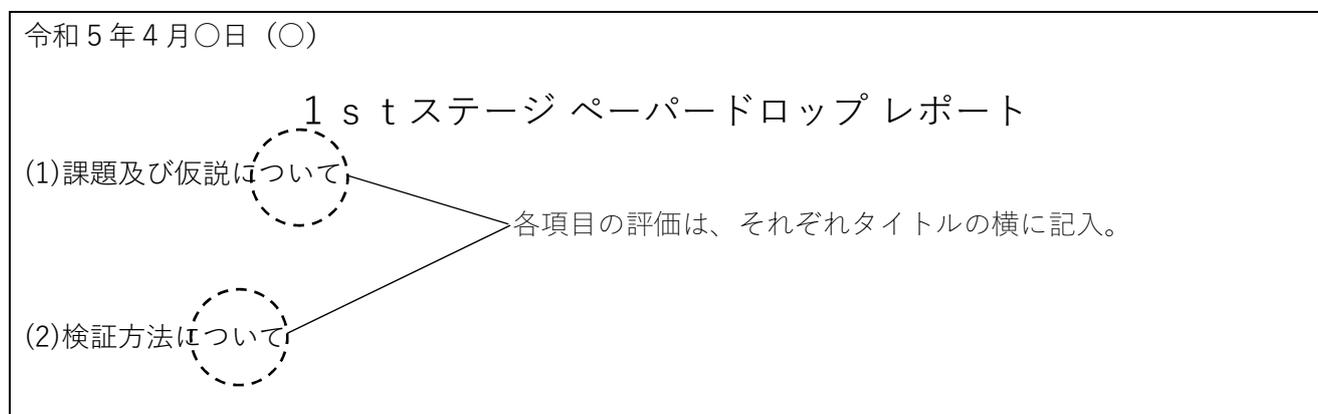
1. 今日の授業

6限：検証方法の設定

- ・前回までに考えた仮説を確かめるための方法を考えます。
- ・実験の場合であれば、仮説を検証するための条件が整っているかどうかを考えさせてください。「落とす高さ」「紙の大きさ、質量」「落とし方」「測定方法」など、考えなければならないことはかなり多いはずですが、意外と曖昧なままであることも多いです。「この方法で本当に大丈夫？こんな風にならない？」といった問いかけで気づかせることも必要になるかもしれません。

7限：レポート作成

- ・研究ノートに書かせてください。分量の指定はありませんが、ノート1ページ以内を想定。題名は「1st ステージ ペーパードロップ レポート」
「課題と仮説」「検証方法」の2項目について、自分たちが取り組んだことを記述させてください（下図参照）。適宜、図表やグラフを用いてわかりやすく説明するよう指示してください。
- ・7限終了時に担当教員に提出。担当教員は、上記の2項目について成果物ルーブリックに従ってそれぞれ5段階で評価を行い、ノートの各欄に記入してください。2nd ステージ開始の日に返却します。
- ・成績入力シートを入力するファイルを作成しましたので、入力をお願いします。



授業終了10分前から、片付けに入ってください。

- ・使った紙は、所定のゴミ袋に捨てる。
- ・はさみ、定規、コンパス、ストップウォッチは、コンテナに返却。
→コンテナは余ったA3用紙と一緒に視聴覚準備室に置いておいてください。
- ・レポート提出
- ・次回も視聴覚室に集合することを、担当の先生から連絡をお願いします。
- ・終了後に戸締まりの確認と視聴覚室の施錠をお願いします。

2. 1st ステージの評価について

本日回収したノートに書かれたレポートを、担当の先生が評価。

「(1)課題及び仮説について」と「(2)検証方法について」の2つについて、それぞれ成果物ルーブリックの該当の項目で5段階評価。評価の結果は各項目のタイトル横に記入（左図参照）

※次週の会議で、評価のポイントの確認を行います。その後、評価が変わる可能性もあるので、最初はとりあえず鉛筆で評価を書きおき、確定後にペン等で書いてください。

3. 次週の内容→視聴覚室にて、2nd ステージに向けたテーマプレゼン発表

先生方にご検討いただいたテーマを説明する文章を、Word等で作成して4月25日（火）までにフォルダに入れて下さい。分量はB5用紙1枚以内。図などを入れていただいても構いません。生徒へは詳細な内容や補足的な説明をメインに、プレゼンをお願いします（5～7分程度）。スライドを用いた発表を行う先生は、事前にデータを〇〇まで提出してください。

【第3回】

1. 今日の授業

視聴覚教室に集合。

生徒へは配布資料の補足や詳細の説明をメインに、プレゼンをお願いします。

下記の時間は目安です、実際には時間的余裕が結構ありますので、色々やってもらっても OK です。生徒にとって魅力的なプレゼンをお願いします。

火曜・金曜校時の場合です。月曜日は10分ずつ早くなります。

- | | | |
|----|-------------|--|
| 6限 | 14:30~14:35 | 出欠確認（1st ステージの担当生徒について、出欠確認をお願いします） |
| | 14:35~15:00 | 全体説明、プレゼン資料配布
※2nd ステージの流れと探究活動を進める上での留意点について
※課題設定や検証方法を行う上で全体的に注意すべきことについて確認します。その後のプレゼン資料配付は、お手伝いをお願いします。 |
| | 15:00~15:20 | テーマプレゼン（1人あたり6分×3人（文系講座は4分×4人） |
| 7限 | 15:30~16:05 | テーマプレゼン（1人あたり6分×5人（文系講座は4分×8人） |
| | 16:05~16:20 | 希望調査（第6希望まで）、希望調査回収、次回の説明
※回収、および次回は視聴覚室で講座発表後、各活動場所に移動する旨の連絡は全体で行います。 |

2. Teams について

「R5_普通科 GS 探究II」のチームを作成しました。

担当の先生は参加をお願いします。生徒へは6限に指示します。

2nd ステージが始まったら、担当の先生ごとにチャンネルを作ってください。チャンネル名は

「1、2組（担当の先生の苗字）講座」「3、4組（担当の先生の苗字）講座」「5、6、7組（担当の先生の苗字）講座」をお願いします。

不明な点は〇〇または〇〇までお願いします。

【第4回】

1. 今日の授業

2nd ステージから校務システムへの入力、先生ごとの講座別に分かります。ただし、教務部の対応の都合により、入力可能となるまでに時間がかかる場合がありますので、本日は出欠簿への記録をお願いします。

火曜・金曜校時の場合です。月曜日は10分ずつ早くなります。

6限 14:30~14:45 着席（前回と同じ席）、ノート返却

※評価結果を記入したノートを返却してください。

返却の際に、2nd ステージで意識して取り組むべき点（課題の設定をより踏み込んだものにとできると良い、検証方法の条件をもっと厳密に設定してみよう等々）をフィードバックとして説明してあげてください

14:45~14:55 2nd ステージグループ分け発表、移動

先生方に配布したクラスごとの名簿（A3サイズ）を生徒に示すことで発表します。発表後、2nd ステージ担当の先生の指示で各活動場所に移動させてください（場所を移動する場合は他の授業の迷惑にならないように教員が引率して静かに移動して下さい）。

14:55~ 活動場所でグループごとに活動

2. 最初の活動について

当面は課題を見つけることが目標になりますが、実際にはとても時間がかかり、生徒も苦勞すると思います。生徒はGS探究Ⅰで「世の中の事、自分自身の事について深く考えながら疑問から課題に変えていく」ということを経験していますので、「与えすぎず、けれども放置しすぎず」生徒自身が深く考える中で課題を見つけていけるようにお手伝いをしていただければありがたいです。

年度当初に配布した普通科課題研究の成果集や、本校HPもご活用ください。また、全国のSSH校の同様の成果集を物理実験室入口そばの本棚に保管しています。こちらもご活用ください（持ち出しはご遠慮ください）。

9月の「経過報告会」は、ポスターセッション形式で多くの人から意見をもらい、2nd ステージ後半を進める上でのヒントにすることが目的です。このときの発表内容は研究の途中段階でOKです。

3. ノートの記入について

研究の記録という観点から、毎回の活動の記録は必ず残しておくように、2nd ステージ担当の先生から改めて伝えてください。様式は自由です。

【研究ノートの項目と使用例】

日付、出欠、活動内容（調べた事や話し合った事など）、今日のまとめ、次回の予定、指示された内容

【第7回】

1. 1学期のパフォーマンス評価について（確定版）

実施日は本日～期末考査直前の活動日の範囲で、講座毎に設定してください。

実施の1週間前までに別紙を生徒に配布の上、説明をお願いします。

【パフォーマンス課題①に向けて事前指示内容（例）】

次週の授業の最後 15 分で、パフォーマンス課題①を行います。これまで活動でテーマについて学んだことを整理して気づいたことを踏まえて、現在自分達が何について探究しようと考えているかについて説明できるよう、自身のノートに記録したことや文献で調べたことなどを整理するなどして準備をしておいてください。

パフォーマンス課題は、準備したノートや文献を見たり、インターネットで調べたりしながら書いても構いませんが、時間内に書けるようにしてください。また、個人の評価のために行うものですので、班のメンバーと相談したり他人の書いたノートを共有するなどして作成することは禁止です。

課題の内容や評価基準の詳細は配布した資料の通りです。確認しておいてください。

評価の観点は以下の通りです。

点数化	テーマについての学びが十分に整理できている。	テーマについての学びから課題の発見につながっている。	課題を解決するための見通しが整理できている。
5	A	A	A
3	B	B	B
1	C	C	C

お願い

以下の場所に「パフォーマンス課題①各段階の徴候」というタイトルで Excel ファイルを準備しています。

パフォーマンス課題は講座毎に実施するタイミングが異なるため、評価の際に、各講座における A B C 各段階の徴候（判断するポイント）の集約を行いたいと思います。「どういう点で A/B/C と判断したか」について、上記の Excel ファイルに入力をお願いします。

おそらく講座間で大きく基準がずれることはないと思いますが、もしあれば改めて会議で確認したいと思います

【第9回】経過報告会について

- (1) 視聴覚室（火曜日講座は視聴覚教室＋7組の教室）で行います。ポスターセッション形式です。
- (2) 発表会当日は、各班を2つにわけて、6限、7限にそれぞれ発表役と聞き役になります。1人でも発表できるよう準備しておいてください。聞き役は、発表を聞いた後にコメントシートにアドバイス等を記入して、聞いた班に渡します。
- (3) 報告会の目的は生徒に発表の機会を与えることと、なるべく大勢の人から意見をもらって、2ndステージ後半を進める上でのヒントにすることです。しっかり話ができる雰囲気を作りたいと思います。
- (4) 報告内容は取組の途中段階でOKです。

全班発表会や研究論文は「先行事例」「課題」「仮説」「検証」「結果」「考察」の形でまとめますが、経過報告会の段階ではこだわらなくてもOKです。

(例) タイトル、メンバー、今やろうとしていること、こんなことをしました、こんなふうに思っています、これからこんなことをします、等

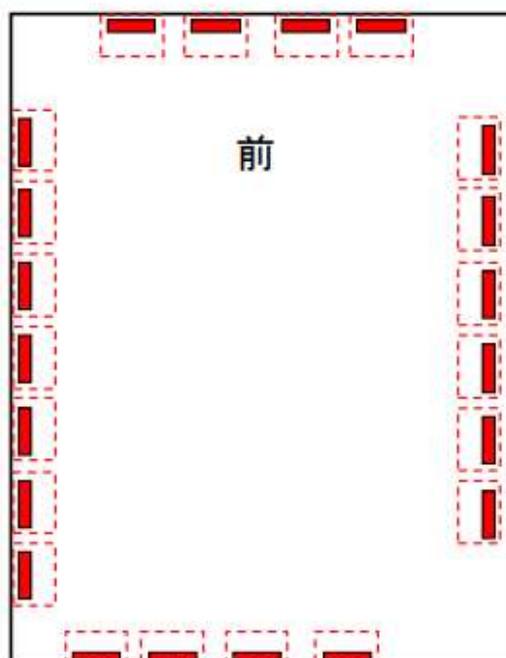
- (5) ポスターの形態としては

- ・模造紙1枚にマジックで手書きしたもの
 - ・各項目をB4用紙横向きにマジックで手書きしたものを並べたもの（最大8枚）
 - ・各項目をパワーポイント等で作成し、B4用紙横向きに印刷したものを並べたもの（最大8枚）
- のどれでもOKです。これらを白のボードに貼り付けて発表します。

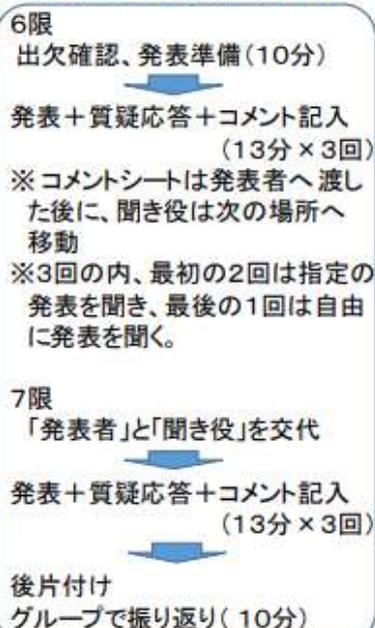
※データとして残る形で作成すると、12月のスライド作成にも使えて便利かもしれません。

※「物品の展示」や「演示」もOKです。どうすれば伝わりやすいポスターになるか、メンバーと考えながら作業しましょう。ただし、会の目的は(2)ですので、なるべくポスター作成の労力は最小で、交流の種となるような発表を工夫してみてください。

1, 2組 経過報告会(会場配置図の例)



・各班「発表者」と「聞き手」に分かれる



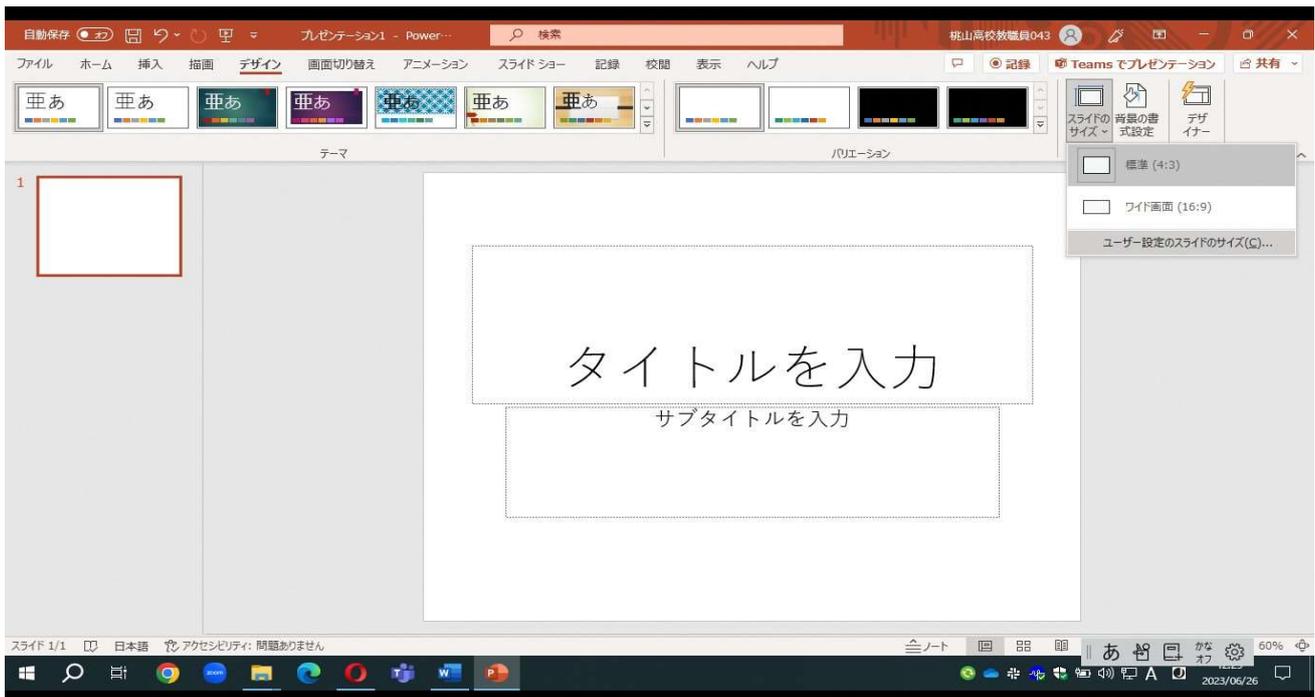
【第 10 回】

1. 経過報告会準備について

今週から経過報告会準備です。

PowerPoint の場合、紙面のサイズは「B4 (JIS) 257×364mm」、印刷の向きは「横向き」でお願いします。設定方法は下記の通りです。

「デザイン→ユーザー設定→スライドのサイズ」から、「ユーザー設定のスライドのサイズ」を選択してください。

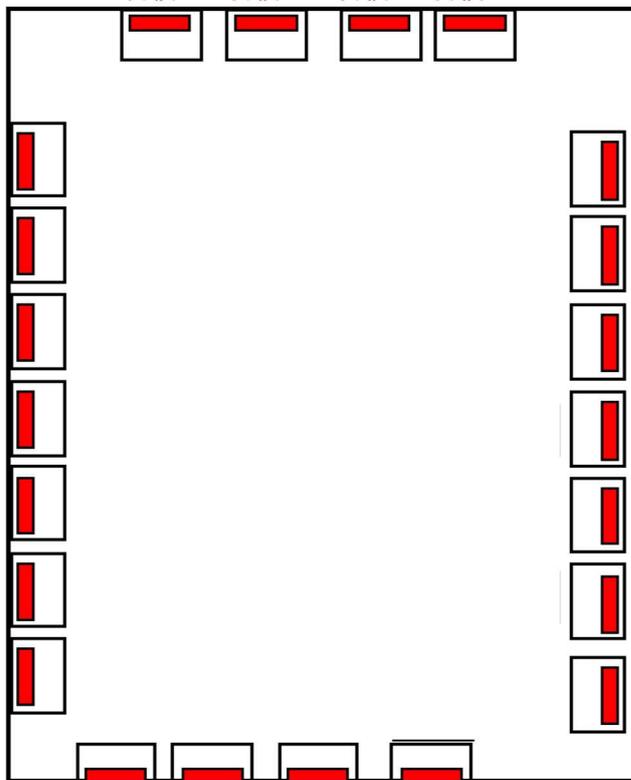


【第12回】

1. 経過報告会準備について

- ① 報告会当日は視聴覚教室（文系は一部7組教室）のポスター掲示場所（下記参照）に集合してください。出欠は号令後、講座毎に取ってください。
- ② 会場には研究ノート、タブレット端末、筆記用具を持参してください。
- ③ ポスターは事前に提出する必要はありません。報告会当日、各班で会場に持ってきて、準備時間中に掲示してください（セロテープ、養生テープは準備します）。B4用紙で作成したものは、直接ボードに貼り付けても、模造紙に張り付けたものを掲示しても、どちらでも構いません。
- ④ 発表は全3回実施します。最初の2回は指定の場所（スライド参照）の発表を聞き、最後の1回は好きな場所の発表を聞きます。
- ⑤ 発表を聞いたら、コメントシートに記入して発表者に渡してください（先生方もぜひよろしくお願いします）。
- ⑥ 報告会終了後、コメントシートでもらった意見をノートにまとめたり、気づいたことや感想等を記入したりする時間を取ります。
- ⑦ 当日までに、ポスターの写真を撮って Teams にアップしてください。修了後、ポスターは各自ではがして持ち帰ってください。

1, 2組 経過報告会



・各班「発表者」と「聞き手」に分かれる

6限

出欠確認、発表準備(10分)

発表＋質疑応答＋コメント記入
(13分×3回)

※コメントシートは発表者へ渡した後に、聞き役は時計回りに1つ隣の場所へ移動

※3回の内、最初の2回は指定の発表を聞き、最後の1回は好きな場所で発表を聞く。

7限

「発表者」と「聞き役」を交代

発表＋質疑応答＋コメント記入
(13分×3回)

後片付け
グループで振り返り(10分)

【第 13 回】

1. 経過報告会後の取組について

経過報告会での交流内容やもらったコメントシートについて振り返り、今後の探究で何について取り組むかを話し合った後に、活動を続けてください。

※特に、「仮説の検証について、より説得力のある検証方法の検討（アンケート以外にも検証方法はないか、検証結果が主観による評価となっていないか、等）」について、生徒へご指導をお願いします。

2. 2 学期のパフォーマンス評価について

2 学期には 2 回、パフォーマンス課題を実施します。所要時間はそれぞれ 15 分程度の予定です。

2 学期の課題は次のとおりです。

(課題 2A) 設定した仮説を述べなさい。また、その仮説を設定した理由を説明しなさい。

(Critical Thinking, Challenge)

(課題 2B) 活動計画を説明し、立案にあたって工夫した点や苦労した点を書きなさい。

(Creativity, Collaboration, Communication)

ルーブリックによる評価基準、および各基準の徴候は別紙の通り。

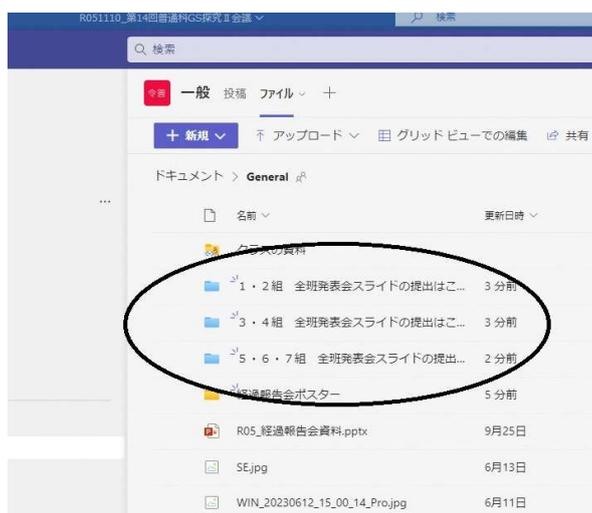
各講座の担当教員が確認後、10 月 31 日以降の授業で生徒へ連絡してください（配布プリントを準備します）。

各課題の実施日は、それぞれの担当の先生が決めて、生徒へ連絡してください。

各課題は、各自の研究ノートに記述し、提出させてください。

【第14回】スライド発表に向けて、パワーポイントの作成について

- (1) 発表会の発表時間は、1班あたり発表時間7分＋質疑応答時間1分で割り当てます。
特に発表時間は厳守して下さい（授業時間が延長してしまう場合があります）
- (2) スライドの横縦比率は16：9で作成してください。
- (3) スライド枚数やアニメーションの利用に制限はありません。
- (4) パワーポイント資料は下記の構成で作成してください。この構成は成果評価のルーブリックの項目であり、代表班を選考する際の評価項目でもあります。下記の構成に沿わない研究もあるかと思いますが、なるべく近づけた形で発表してください。
 - ① 表紙：発表タイトルとメンバー名を書いてください。
 - ② 課題：設定した課題を、調査した先行事例等を踏まえて書いてください。
 - ③ 仮説：課題に対する仮説を書いてください。
 - ④ 検証：仮説を確かめるための検証方法を書いてください。
 - ⑤ 結果：検証結果を図表、グラフ、写真（動画）等でわかりやすくまとめてください。
 - ⑥ 考察：検証結果について考察した内容を書いてください。
 - ⑦ 結論：本研究の結論（まとめ）を書いてください。
- (5) 作成中のスライドデータは Teams のそれぞれのグループのチャンネルに保存してください。
- (6) 完成したパワーポイントファイルは
「○○先生△△班」.ppt（例：「佐藤先生1班.ppt」）というファイル名で提出して下さい。
- (7) 作成したスライドは、それぞれの講座の「全班発表会に向けた発表練習」の日（1・2組は12月18日、3・4組は1月19日、5・6・7組は1月9日）の17時までに、Teams 上の以下の場所に提出してください。



※なお、提出された後でも「全班発表会」本番前日の17時まではスライドの修正が可能です。

その場合は、作業終了後に最新版が上記の提出場所に保存されていることを必ず確認すること。

- (8) 授業時間外の活動については物理実験室で行うことが可能ですが、部活動や定時制の授業等に配慮してください。できるだけ授業内で完成できるように、計画的に作業を進めましょう。
- (9) 提出されたスライドは、年度当初に示した「成果評価ルーブリック」で評価します。

【第 16 回】

1. 課題研究発表会に向けて、(1)～(8)は生徒に伝えてください。

- (1) 全員が発表に参加すること。
- (2) 当日の発表（提出スライドも含む）は成果物評価ルーブリックにより評価します。
- (3) 発表時間は7分以内（一部15分の班もあります）。発表時間は代表班選考の評価項目に含みませんが、発表会の進行が遅れないよう、各班厳守してください。
- (4) 各会場にレーザーポインタを準備しておくので、発表時は自由に使って構いません（練習用の貸し出しはありません）。マイクは用意しないので、会場の後方まで聞こえるように練習すること。
- (5) 質疑応答を行います。質問者がいない場合は、司会の先生が直前の発表班を指名しますので、あらかじめ質問を考えておくこと。※進行の時間調整に使ってください。進行が遅れている場合は質疑応答を省略して頂いて結構です。
- (6) 生徒は生徒用評価シートで他の班を評価してください。教員も評価を行います。
- (7) 教員の評価と生徒の評価をもとに、各発表会場から代表班を1班決定します。代表班選出の結果は後日、教室掲示で連絡します。代表班は、2月6日の代表班発表会で発表を行います。
- (8) 全班発表会に向けて必ず十分な発表練習をすること。例年良い内容なのに、発表練習不足（声が小さい、原稿を見ながら発表する等）で内容が聞き手に伝わりにくい発表が見受けられます。※発表について、下記のポイントを生徒に伝えて下さい。

↓

『発表は単なる一方的な説明ではなくコミュニケーションの1つであり、発表の大きなポイントは「相手に確実に伝える」ことです。そのために「原稿ではなく聞き手の様子を見ながら」「聞き取りやすい声で」「熱意をもって説明すること」が重要となり、その結果アイコンタクトやジェスチャーが必要になります（1年生のサイエンスイングリッシュキャンプで学んだことを思い出しましょう）。

この点を意識しながら発表練習を行ってください。ただし、頭が真っ白になって発表が止まりそうになる場合は、落ち着いて原稿を確認しても大丈夫です。』

2. 発表会の評価に関して、(9)～(11)は先生止めでお願いします。

- (9) 教員は、教員用評価シートで会場の全班の発表（担当班も含む）を評価する。
- (10) (9)の教員の評価結果を合計して各会場から1班、代表班を決定する。代表班選出方法は下記のフィギュアスケート方式で行います。
 - ①：各会場の教員4名の評価のうち、最高点と最低点を除いた点数の合計が高い班
 - ②：①で同点の場合、会場の教員4名の合計点が高い班
 - ③：②でも同点の場合、生徒評価の高い班
- (11) 代表班発表会の発表については生徒の成績（評定）に直接的には反映させない。授業の一環として、「探究力評価ルーブリック」（平常活動のルーブリック）の判断材料とするのはOK。

【第 17 回】

1. 全班発表会の結果について

生徒へは 1 月 29 日 SHR で連絡予定です。生徒への公表は各会場 1～3 位までです。

2. 代表班発表会について

2 月 6 日（火）6・7 限 京都府総合教育センター講堂棟にて実施

3. 研究論文について

研究論文は GS 探究Ⅱの授業で完成させ、評価をお願いします。作成開始前に別紙「研究論文の作成について」を配付の上、説明をお願いします。

活動場所は各活動場所、使用 PC は各自の端末ですが、機器の故障等により情報処理室や文書処理室での作成を希望するグループがあれば、〇〇までご相談ください。

作業ファイルは、できるだけ個人の端末にもバックアップを取るよう伝えてください。

ノートは、GS 探究Ⅲでも引き続き使用するので、捨てたりしないよう伝えた上で生徒に返却してください。

【第 19 回】

1. 研究論文について

研究論文作成上の注意点

- (1) 本来、研究論文は個人で作成するが、本授業では班で作成する。メンバーで手分けして質の高い論文を作成すること。ただし、「要旨」「考察」「結論・展望」「感想」は個人で作成すること。
- (2) 研究論文の書き方は別紙参照。また、論文の体裁については下記の通りで勝手に変更しないこと。
 - ① サイズ→A4
 - ② 余白→上下左右全て「20mm」
 - ③ 行数→1 ページあたり 41 行
 - ④ フォントの種類とサイズについて、文字色は黒（他の色は使わない）
 - ・タイトル→MS ゴシック 14pt
 - ・見出し→MS ゴシック 10.5pt
 - ・その他→MS P 明朝 10.5pt
- (3) 研究論文は他人に読んでもらうことが前提であり、他人が内容を理解できるようにわかりやすく論理的に文章としてまとめること。箇条書きや口語での記述は×。
- (4) ページ数は A4 サイズ 3 枚以上 4 枚以内。
- (5) 作成した研究論文は、Teams 上の「○組 研究論文提出はこちらへ」という名前のフォルダに提出すること。ファイル名は「研究論文○組○○番○○○○」(例)「研究論文 1 組 01 番桃山太郎」←数字は半角 他人のファイルを開いたりしないように注意すること。
- (6) 研究論文の提出締め切りは、各講座の GS 探究 II 最後の授業日 午後 5 時（厳守）
- (7) 論文のファイルについては G S 探究 III や大学入試でも使用するので、提出したファイルのコピーを自身の端末または OneDrive にも保存しておくこと。